

日本原燃(株)六ヶ所再処理工場のしゅん工 に向けた進捗状況について

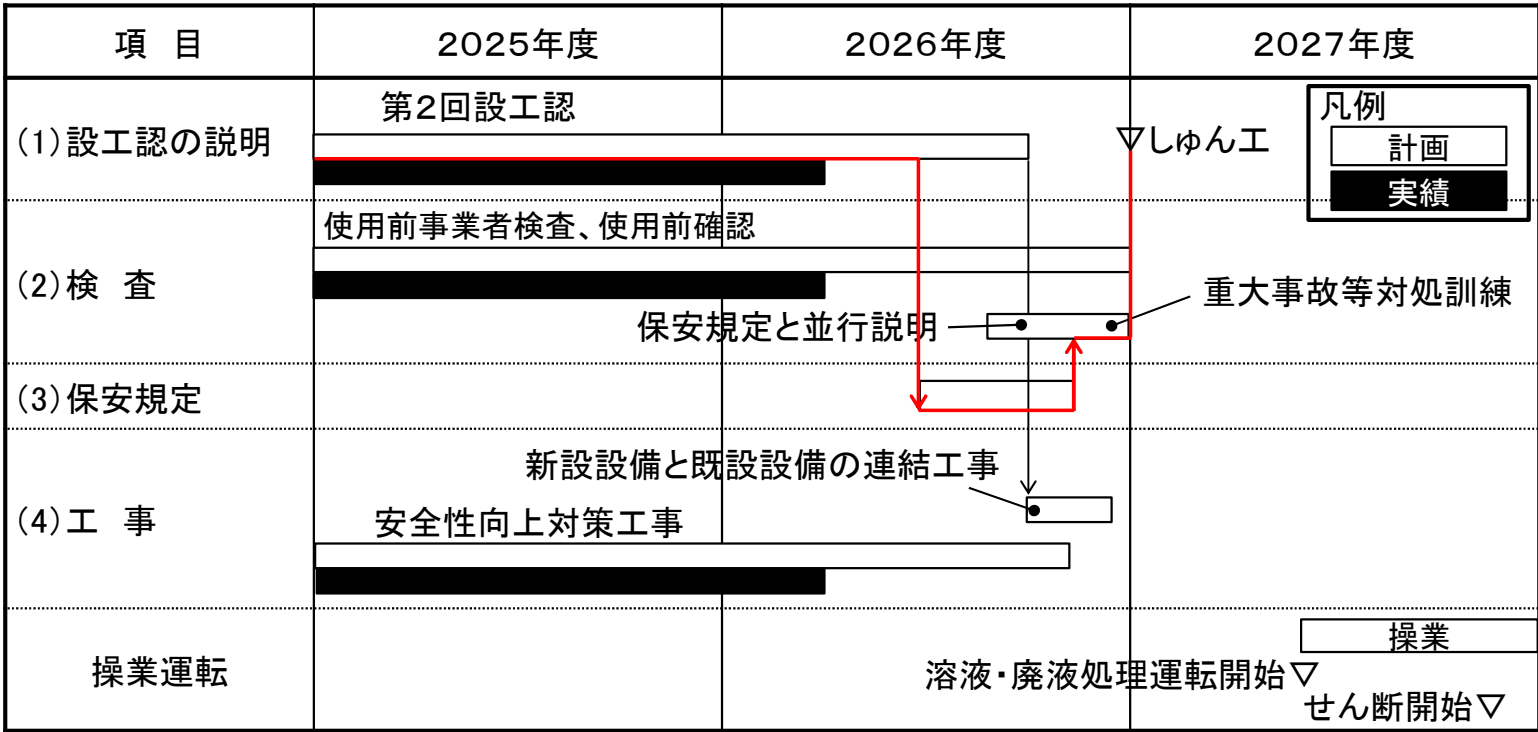
2026年8月26日
九州電力株式会社

1. 六ヶ所再処理工場のしゅん工に向けた進捗状況

- 当社は、原子力発電所の運転に伴い発生した使用済燃料を再処理するために、日本原燃(株)の六ヶ所再処理工場(青森県)に搬出することを基本方針としています。
- 日本原燃(株)は、六ヶ所再処理工場の詳細設計にあたる設計及び工事の計画の変更認可(設工認)申請について、2026年6月8日の審査会合で一通りの説明を終えました。
- 日本原燃(株)は、第2回設工認申請に係るこれまでの審査を踏まえた補正書の準備や運用を定める保安規定の認可に向けた対応、使用前確認の準備等を進めているところです。
- 当社は六ヶ所再処理工場のしゅん工に向け、引き続き、日本原燃(株)を全面的に支援してまいります。

再処理工場のしゅん工に向けた進捗状況（2026年6月8日時点）

再処理工場の設工認の説明、検査、保安規定、工事の各項目における計画に対する状況は以下の通りです。



(2026年6月18日 使用済燃料対策推進協議会資料を基に作成)

2. おわりに

- 当社は、使用済燃料を再処理工場に搬出するまでの間、一時的に発電所内で使用済燃料を安全に貯蔵管理してまいります。
- その一環として、安全最優先で乾式貯蔵施設の設置工事を進めるとともに、使用済燃料貯蔵対策に万全を期してまいります。

参 考

○当社は、原子力発電所の運転に伴い発生した使用済燃料を再処理するために、日本原燃の六ヶ所再処理工場に搬出することを基本方針としており、搬出するまでの間、貯蔵余裕の確保や運用性の向上などを目的に使用済燃料貯蔵対策に取り組んでいます。

【使用済燃料貯蔵対策】

- ・使用済燃料プールの貯蔵容量を増やす工事であるリラッキング（貯蔵能力の増加）
⇒玄海3号機において、使用済燃料を収納するラックセル（収納棚）の間隔を狭めて、使用済燃料プールの貯蔵容量を増やす工事（リラッキング）実施しました。
- ・使用済燃料プールの共用化および使用済燃料の構内輸送（貯蔵体数の平準化）
⇒玄海3, 4号機に貯蔵している使用済燃料の平準化を図るため、玄海3, 4号機の使用済燃料プールの共用化を行い、適宜、使用済燃料の構内輸送を行っています。
- ・乾式貯蔵施設の設置（貯蔵の信頼性および運用性の向上）
⇒燃料を金属製の貯蔵容器（キャスク）に収納し、専用の建屋に貯蔵する乾式貯蔵施設を発電所の敷地内に設置することとしており、貯蔵容器は、燃料の冷却に水や電気を使わず、空気の自然対流（換気）で冷却します。
- ・高燃焼度燃料の導入（使用済燃料発生量の低減）
⇒玄海4号機において、現在使用している燃料より長期間使用でき、定期検査時に取り替える燃料を減らすことができる高燃焼度燃料を、2028年度を目途に導入することとしており、原子炉内で使用する燃料が全て高燃焼度燃料となれば、1回の定期検査で発生する使用済燃料の発生量が1割程度減少（約70体 ⇒ 約60体）します。